

重要インフラにおける分野横断的演習 ～【CIIREX 2011(シーレックス 2011) *1】～の実施概要について

内閣官房情報セキュリティセンターは、重要インフラ事業者を始めとする37組織の参加を得て、本年度で6回目となる分野横断的演習を実施しました。

停電、通信障害、断水、ガス供給停止の広域的かつ複合的な発生を想定した演習を通じて、各参加者ともにBCP（事業継続計画）等に基づく対応について多くの気づきを得られました。

1. 実施日時・場所

平成23年12月12日（月）12：00～18：30

株式会社三菱総合研究所（千代田区永田町）会議室（一部自職場）

2. 参加機関等

【重要インフラ事業者等】10分野（情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流）の16機関

【セプター】10分野の14セプター*2

【分野横断的演習関係有識者】

【政府】重要インフラ所管省庁

（金融庁、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省）及び
内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）の6機関

合計 37組織 131名が参加（内3組織 12名が自職場参加）

*1：「CIIREX」は「重要インフラにおける分野横断的演習」の略称。以下の英文の頭文字。

CIIREX 2011：Critical Infrastructure Incident Response Exercise 2011

*2：「セプター（CEPTOAR）」とは、各重要インフラ分野で整備されている情報共有体制のこと。情報共有・分析機能を示す英文の頭文字。

CEPTOAR：Capability for Engineering of Protection, Technical Operation, Analysis and Response

3. 演習内容

本年度は、首都圏を中心とした地域において、停電、通信障害、断水、ガス供給停止が広域的かつ複合的に発生した事態を想定し、重要インフラ分野の情報システムに及ぼす影響についての情報共有やIT障害の未然防止・被害最小化等、各分野のサービス維持や早期復旧に関する演習を実施しました。

具体的には、半日の演習時間の中に緊急対応（発災後1～2日）、継続対応（発災後3～6日）及び復旧（発災後7日以降）の3段階を圧縮して組み込み、各段階に応じた情報共有や対処要領について演習を行いました。

また、サプライチェーンの混乱、サービス障害に伴う風評・デマや標的型攻撃への対応を取り入れました。

本演習により、①サービスの提供を受ける側に立った情報提供を行うこと、②複数の障害が発生した場合の対応方法や復旧優先順位を予め決めておくこと、③業務委託先等との間で多様な連絡手段を確保しておくこと等の必要性について、各参加機関で多くの気づきが得られたことを確認できました。

4. 今後の展開

各重要インフラ事業者等においては、準備段階を含めて演習を通じて得られたBCP等における気づきを自社あるいは各分野内で共有し、情報セキュリティ対策の向上等の取り組みに活用されることが期待されています。

また、内閣官房情報セキュリティセンターにおいては、各事業者へのヒアリング等を通じて、分野をまたがる有効な気づき等を整理し、今後の官民の情報共有体制に関する検討に役立てるとともに、政府の情報セキュリティ政策会議等に報告する予定です。

【問い合わせ先】

内閣官房情報セキュリティセンター

内閣参事官 小室 充弘

参事官補佐 松本 和重

電話：03-3581-8903